

Organo de Hokkaido Esperanto-Ligo

LEONTODO

N-ro 47

6 - 1972

ENHAVO

Raporto de la 5a Komitata Kunsido.....	2
La dua inforna de la 36a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo.....	4
産権規約改正案(スウェーデン議案).....	6
和文ライオン入会長の私案(河野虎夫).....	7
Ĉu realiĝos la plano havi E-Domon en Sapporo?.....	8
各地のうごき	
Elementa Kurso en Sapporo.....	9
公費税案議員団への働きかけ.....	9
事務局より.....	12
TEMAの台座に参加して / 黒川恵美子.....	13
エスパーントイストのみならず / 永伊良一.....	14
ロンドン大会に参加して / 塩江精一.....	15
El mia vojaĝo tra Eŭropo / 本村洋子.....	20
INTER NI.....	22
Esperanto k E-istoj en ĵurnaloj k gazetoj.....	23
Lernantas...? Sciintus...? / 星田淳.....	24
EL NIA LETERKESTO.....	25
Pli altigu E-movadon en Hokkajdo.....	26
POSTSKRIBO.....	28
Kio estas duonkonduktanto? / Iĉikaŭa T./.....	29
Rakonto de Dio Strigo pri si mem (2) /trad. A.Hoŝida..	30
Rakonto de Okikirmuido "Ĉi Sabro Ruĝas, Ruĝas" (Pon Okikirmuj jajejukur "Tanota hure hure") / trad. A.Hoŝida..	34
Japana-Esperanta Vortaro por mi (2) /Hamada K.	37

Reporto de la 5a Komitato Kunsido

5月14日、8-10 高橋宛にて。出席者：高橋、星田、沢谷

今期最後の連盟委員会なので、委員会として、連盟規約改正案を7月の大会に提案するべく検討しました。(大会提案議題参照)

1. 大会、連盟の esperanta nomo について

昨年の大会で出された問題については、Leontodo, p. 1044 で HES からの komento と 8-10 Hosida の見解が出されています。一番大きな点は、固有名詞のエスペラント化をどこまで認めるかということです。委員の間にもいろいろ意見があります。Zamenhof の精神をまもりますと、連盟の名は Hokkajda Esperanto — Ligo ということになります。北海道を Hokkaido とせず、Hokkajdo とする点までは問題はないのです。しかし、エスペラント化したのなら、その単語は、当然エスペラントの文法に従って、語尾 変化するわけですが……。現実的問題として、すでに印刷され、まだ 500 枚ほど残っている Leontodo の表紙には、Hokkajdo Esperanto—Ligo となつていますので、今更ぐに Hokkajda Esperanto—Ligo に 統一することはできません。したがって、当面は両方とも認めざるを得ないでしょう。大会の名称は、この点を考慮し、混乱をさけるために、La 36a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo という形のエスペラント名を採用することを提案します。いづれにしても、固有名詞のエスペラント化については、まさにより多くの Esperantistoj が実際に使つていくうちに、定着するものでしょう。

2 規約第 2 条から第 4 条までは、現行の規約と内容は変つていません。ただし、第 4 条の中味については、実践の上で、より豊かなものにしていかなくては……。

3 委員及び委員会について

委員会は、各ロンドの連絡機関であると同時に、全道のエスペラント運動に対して責任をもつ執行機関的性格をもっていることを明文化し、ました。委員会で議論するのみならず、可能なかぎり実践も行なつていくことによつて、従来、事務局にすべての仕事が集中しがちであつた点をもちだめることができるのではないのでしょうか。

連盟の最大の事業である機関誌(紙)の発行についても、その発行体制を
より安定なものにすることができるのではないのでしょうか。

委員の選出に関しては、まず、各ロンドが、そのロンドを代表する連盟
委員を各自選び、北海道大会で承認を得るとい形式になるでしょう。ま
た、どのロンドにも所属していない個人会員の中からも、委員としての名
割をはたし得る人は、大会において委員として選出されます。

4 財政については、第4回連盟委員会の報告でのべたとおりです。(2001)
(Leontodo n-ro46 参照)。

また、s-ro 市川の提案 (Leontodq n-ro44) にしたがひ、会計監行
の項を新しくつけ加えました。

各ロンドの例会などでも、改正案について討論を深めてください。

(Sawaya Y.)

~~~~~~~~~  
Karj gesamideanoj!

1972 年は UNESCO の国際図書年です。

エスペラントの本をたくさん読みましょう。

エスペラント文化を高めるために!

エスペラントの本をたくさん買いましょう。

エスペラントの出版文化を支持するために!

monujo の許すかぎり!!

道内唯一のエスペラント書専門店 緑屋堂 (Librejo VERDA STELO) は  
今年もまた、大会会場に即売店を出し、みなさまのご要望にこたえます。

では大会で!

via serioza

Malseri Okulo.



「第36回北海道エスペラント大会」

La dua informilo de Hokkajda Kongreso

とき： 1972年7月8日(土), 9日(日)

ところ： 中山峠健民センター・トレーニングハウス

044-03 虹田郡喜茂別町字川上

電話 喜茂別9911 ~ 9913 内線5003

ことしの北海道エスペラント大会の日程を、次のとおり予定しましたので是非ご参加くださるようご案内いたします。

第1日(7月8日)

15,00 ~ 受付開始

15,30 ~ 楽しい楽しい!

(1) スライド上映

(2) 合唱

(3) お話し

17,30 ~ こんしん会

19,30 ~ キャンプファイヤー

22,30 ~ 就寝

第2日(7月9日)

7,30 ~ 朝食(希望者は6時から朝食まで山菜取りに行きます。)

9,00 ~ 会議

11,30 ~ 記念さつえい

12,00 ~ 昼食

13,00 ~ エスペラントで楽しく!

(1) 20の扉

(2) 各地方会の出しもの

15,00 解散

費用

|          |        |       |      |
|----------|--------|-------|------|
| 一般 (参加費) | 2,200円 | (申込金) | 700円 |
| 学生       | 2,000  |       | 500  |
| 子ども      | 1,300  |       | 300  |

不在参加

500円

500円

注) ◎申込金は参加費に含みます。

◎7月9日のみ参加の方は、申込金と同じ額です。

◎参加費には、宿泊費、9日の昼食代、記念写真代などを含みます。また、9日のみ参加費には、9日の昼食代、記念写真代などを含みます。

### 申込み

8月下旬までに申込金を添えて下記へお申込みください。

060 札幌市中央区南2条西4丁目 中央タイピスト学院内  
札幌エスペラント会 (TEL 251-4750)

振替 小樽 8310

または 北海道エスペラント連盟

振替 小樽 17075

### ◎お願い

・大会会場及び宿舎は借り切りますので、是非多数の方々のご参加をお願いします。

あなたのお友だち、ご家族にもぜひ!

・朗読コンクールに参加しよう! (komencantoj 対象)

「La Teksto Unua」から、好きな1課を選んで個人あるいはグループで朗読してください。もちろん内容をおもしろく、適当にreadしてもよい。各ロンドの初級講習を終えたばかりの人、いま受けている人は必ず出よう。賞品多数あり! 今から練習を!!

・中山峠は7月といっても朝夕は冷え込みますので、セーターなどを用意しなさい。

第36回北海道エスペラント大会準備委員会

*Vin Atendas La Kongreso!*

大会議案 1

北海道エスペラント連盟規約改正案

(連盟委員会提案)

第1条(名称) この連盟は、北海道エスペラント連盟(Hokkaido Esperanto - Ligo aŭ Hokkajda Esperanto - Ligo)という。

第2条(組織) この連盟は、北海道在住のエスペランティストの中の希望者(個人会員)および地方会各団体(団体会員)で組織する。

第3条(目的) この連盟は、北海道におけるエスペラントの宣伝と実用をはかり、民主的文化の向上に寄与し、世界的な交流をはかることを目的とする。

第4条(事業) この連盟は、目的達成のため、次の事業を行なう。

- A 機関誌、印刷物の発行
- B 講習会、展示会、合宿などの開催
- C 国内外のエスペラント団体との共働
- D エスペラント以外の諸文化団体との提携
- D その他

第5条(大会) この連盟は、年1回北海道エスペラント大会(Kongreso de Esperatistoj en Hokkajdo)を開催する。

第6条(委員会) この連盟に、次の委員よりなる委員会をおき、連盟の事業を立案、実行する。

- A 委員長1名、副委員長1名、事務局長1名および各構成団体、個人会員の中より選出される委員。
- B 委員長は、この連盟を代表し、委員会を開く。
- C 各委員の任期は、定期大会から次の定期大会までとする。

第7条(財政) この連盟の会費は、個人会員は年額800円(学生500円)団体会員は1名につき600円(学生400円)とする。

会計年度は歴年とする。

第8条(会計監査) 前期の委員長が会計監査を行ない、大会で報告する。

第9条(規約改正) この規約は、大会の決議がなければ、変更することができない。

(連盟委員会提案)

INTERCIVIA KUNLOGADO (合宿)を連盟主催で、9月15日(祝日)16日(土)、17日(日)の5日間行なうことを提案します。

場所として、札幌、小樽、千歳、室蘭、苫小牧から近く、宿泊費が安設備の整っているところで。

和文タイプ購入のための募金

さらに一層のご協力を！ (第1回発表 5月31日現在)

- 3,000円 札幌エスベラント会
- 2,000円 池本盛雄、星田淳、平田岩雄
- 1,450円 菊島和紙(東京)
- 1,000円 木村善任治、北島 暉、児玉広夫、永戸良一、沢谷雄一、高橋要一、浜田国貞、江口音吉、岡本義雄、斉藤千寿、新田為男
- 500円 佐藤正広、吉田 崇、田中保一、小田島 栄、藤原保夫、村上 久、高野重輝夫、市川 忠、坂本京子、中森美穂、岡本京子、高野紀恵子、土香孝子

合計27,986円。ありがとうございました。中古タイプは、8-10円手づるで、比較的容易に見つかりました。1,000円です。連盟の定期刊からして見ていただきました。しかし、他方、Leontodo n-ro 46 の送料を含む、今更なつた募金とはほぼ同額が出版されてしまいました。n-ro 27 の費用もげつとりかかると思われます。したがって、連盟の出版はまた不安定です。ひきつらぬ、和文タイプ購入のため生じたるべく、会員のみさんのはば広い財政援助を願います。第2回募金を9月末までお願いします。送金には振替口座をご利用ください。

札幌エスベラント連盟；(小樽)17075

(Sawaya, Y. sekretario de HMI)



## ¿Cu realizós la plano havi E-domon en Sapporo ?

5月29日、札幌の有志6人が集まり、n-ro46 へのせた「よびかけ」の反響を分析し、実現の可能性について検討しました。こちらの財政基盤は現在毎月maksimune 1万1千円ほど出せることが推算されます。しかし、1部屋だけ、団体で使用するという条件で貸してくれるところは、現実問題として見つけることが難しいので、2部屋ということになるでしょう。そうすると、部屋代として1万2千円程度、それに電気、ガスその他維持費として3千円、あわせて1万5千円ほど必要になつてきます。また、権利金、敷金も当初は必要です。そこで、結論として、①実際に部屋さがしをはじめること、②維持会員から、さつそく拠出金(会費)を集める。(もし、実現不可能ということがはつきりした時には返却します。)、③さらに札幌の同志の中から維持会員をふやし、財政基盤を確立する。という3つの活動が続けていくことになりました。とくに、札幌の同志のみなさんには、さらに一層の協力を呼びかけるものです。現在、「エスペラントの家」の維持会員となることを意志表示なされた方々は13名で次のとおり。

Hamada K.(浜中), Hirata I.(室蘭), Hukuda S.(釧路),  
Kimura K., Kodama H., Kurokaña H., Macuoka K., Mine M.,  
Nasu H., Saito Ōieko, Sawaya Y., Simizu H., Takahañi J.,  
それに、関西の若手活動家で、La Movado や R.O. 誌上で大活躍しておられる峰芳隆さんから1,000 円のカンパがありました。

(Sawaya Y., つくる会世話人)

◎連絡先; 065 札幌市中央区宮の森 811 - 4, 雪印青英寮内

Tel(011)611 - 1467

振替口座; 沢谷雄一(小樽) 16388

## 名・地、の・う・ご・き

### Elementa Kurso en Sapporo

5月13日から毎週土曜日、中央タイピスト学院で、札幌エス会が主催。受講者14名、受講料は「新選エス和辞典」付きで1,500円、テキストはLa unua。

宣伝には、HELで作ったポスター30枚(8-10木村がポスターカラーで美しく仕上げた。)を、8-10藤井の「足」をかりて、大通りや地下鉄駅の電柱などにぶらさげた。新聞の催し欄は、道新、毎日が掲載。(朝日、読売、タイムスは未確認)。元受講生などに約40枚のはがきによるダイレクトメール、それに、道新市内版へ有料広告。少し時期が遅れたが、STVラジオの「ラジオ伝言板」がとりあげてくれた。

宣伝の効果のほどは、新聞5、ポスター3、ラジオ1、ハガキ1、その他1、(不明3)。

宣伝の準備にあたって、HELの individua membroである f-ino Miura にかたいへん協力していただいたことに感謝します。それにしても BEBの会員諸氏よ、しつかりしてください。

(Sawaya Y.)

### 公客視察海外出張議員へのはたらきかけ

苫小牧エスベラント会は、今回市議会議員の海外出張に際し、行先のうき時間の余裕のありそうなパリ、ロンドン、ニューヨークの gesamideoj までの mesaĝoj と donaseto を託した。これは、別掲新聞記事にもあるとおり。出張計画がわかつたのは4月末、会員 8-10永戸の提案で取急ぎ手打ち、いそがしかつたが、5月10日出発以後、なんとか各地グループと kontaktoも願調のようで、ほつと一息。関係者にはご迷惑もあつたが、公職にある人に、この機会に Esp-ujo の universaleco, praktikeco を知ってもらえれば、また同時に internacia amikeco inter ni を強めることになれば結構と思ひ。経過次のとおり。

5月4日～4日 Samideanoj en Londono (per s-ino Kimie

Markarian), Parizo (Unuigo Franca por Esperanto), Nov —  
jorko (s-ro Mark Starr) に連絡

5月10日 五十嵐、中村両議員出発。Mesago は次のとおり。

Estimataj gesamideanoj en .....

Ni esp — istoj en Tomakomai estas tre ĝojaj liveri  
al vi niajn modestajn memoraĵojn pri nia hejmloko  
Hokkajdo, la plej norda insulo de Japanujo.

Permesu min prezenti al vi la pentriston de la  
bildo. Li estas konata artisto Matao KIKUŬI, naskita  
en 1914, verkas ĉefe abstraktajn bildojn, tamen ĉifoje  
li precipe verkis konkrete teme de pejzaĝojn en  
Hokkajdo. Ni volas konservi tian belan naturon, reziste  
kontraŭ lastatempa malpurigo de la natura medio.

Kun plej amikecaj salutoj

各 grupo あてに託したのは、この mesago と Pentristo 菊池又男の  
風景画、絵はがき。なお、新聞記事は、朝日、室蘭民報に出た。

5月13日 S-ino Markarian 君枝へ速達 (武蔵野市)

雑誌 Samideano により日本訪問中とわかつたので、急ぎ TEJ A に聞  
合わせ Te2.n-ro をきき、そこへ電話。Adreso と在日期間を確認し  
たうえ出した。22日 神田発、23日 ロンドン着。一行のロンドン着と  
同じ日、すれすれで間にあつたもよう。

5月20日 一行パリへ。Unuigo Franca por ESP. の Ges-roj

Guillaume と会見。Laŭ lia letero

Hieraŭ vespere (la 20a) mi vidis en hotelo Hilton  
S-roj Igarasi kaj Nakamura. Mia edzino kaj mi salutis  
ilin sed pere de tradukisto kiu parolis angle. Ni tre  
bedaŭris tiun lingvan baron. Nur la okuloj kaj ridetoj  
rekte parolis..... mi tre dankas al vi por la bela  
pentraĵo de s-ro Kikuŭi. Ĝi estas tre gaja kaj artista.  
Dankon ankaŭ pro la turisma propagaĵilo (Faldfolio  
Hokkajdo) kiu estas tre bona. Ĉu vi sendis ĝin al la

revuoj Heroldo kaj Esperanto por ke oni faru reklamojn?  
Je la nomo de nia Franca Asocio mi skribas por ricevi  
plurajn ekzemplerojn.

五十嵐氏からは次のようにかいてきた。

パリではホテルにメッセージがとどいており、20日午後7時すぎ  
JEAN GUILLAUME 氏ご夫妻の訪問をうけ・・・約40分程お話し  
をじまえた。とても喜んでくれまして絵がすばらしいと感謝していま  
した。60才をすぎたとても品のよい御夫婦で仲むつまじく終始笑顔  
でお話しになつておられました。奥様は又、宇宙人のことに非常に関  
心をもつておられ、私が平取の宇宙人の基地の話しをしましたら、是  
非写真を送つてほしいと頼まれました。

昨日(23日)午前中パリからロンドンに飛び・・・市内レストラ  
ンで昼食のとき飛行場から私たちのバスに添乗されていた尾崎堅太郎  
氏(アトラス・オーバーシーズ サービス株式会社)から私と中村氏  
の名が呼ばれ、彼もロンドンの会員である旨を告げられ、マルカリア  
ン君枝さんからの言づけていつお逢いできるかときかれ、24日午後  
6時にホテルのロビーでということ別れました。

約束どおり彼の紹介でミセス君枝に逢い、更にヘレンプト会長並び  
にブランリー氏(イギリスエスペラント連盟名譽書記)ご夫妻、イヤ  
ンフアントム氏(エスペラント情報関係責任者)の皆様にお逢いしま  
した。・・・ミセス君枝は、東京で貴兄(星田)の便りがご主人から  
転送されてきた内容を見てびっくり、ロンドンの尾崎氏に電話で依頼  
急ぎよ2日前に帰宅したと言つていました。尾崎氏は偶然にも東京ト  
ラベルセンターから私達一行の世話を引きうけており、到着の月日の  
13名という人数が同じなのでもしや?と思つていたそうです。

とにかく貴兄や永戸氏の友愛の心が、善意に満ちた人々の暖かい心  
によつてロンドンのエスペラントの方々に通じ、私達のような者でも  
お役に立つことができてとてもうれしく思いました。それにつけても  
エスペラントがもつ友情と連けい、人間愛のすばらしさ、今更の如く  
認識を新たにし敬感をささげます。

26日午後ニュー・ヨークのサントホテルに着きました。ニュー・ヨ

クのエスペランティストの方からメッセージが届いていましたが、今度はエスペランティストが付添っていないのでわかりません。今夜か明日でもホテルに訪ねてきてくれるといいのですが・・(26日 pm 7時)

## Raporto de Tomakomai Esp-Societo

市会議員の旅行、Fino 木村の旅行別記のとおり。

例年の春の kurso 5月8日から開幕・・・今年は宣伝が行きとどかず、第1日は新人ゼロ。第2日から新人2名、旧人2、3名。他新人で白老から室蘭へ通り Fino 熊倉、室蘭で kurso 参加を希望。室蘭 Societo やつてくれませんか。

## 事務局より

- ◎ 7月の北海道大会で何か決議、提案などをお持ちの方は、至急事務局の方に、提案事項、提案理由、解説を送ってください。kongreslibro を印刷しなければなりませんので。
- ◎ 事務局で宣伝用パンフとして、La Movado から「エスペラント学習をすすめる」と、R.O.'72 年1月号から「ベトナムのエスペラント運動」の別刷を1,000部づつ作りました。実費で個人および各グループにおわけします。(「すすめる」100部250円、「ベトナム」100部400円)
- ◎ 昨年の小牧大会から今までの道内各地のエスペラント界のうごきを一見してわかる「kronologia tabelo」をできれば kongreslibro につけ加えたいと思います。各 Rond あるいは個人で行なつた活動を簡集書きにして、事務局へ6月26日までにお知らせください。(例; 1971, 9, 24 ~ 26, Intensiva Kunlogado de ESP.(HML), 16名参加、千才市青少年研修センター)  
講習会、例会については、使っているテキスト名も。新聞に記事が出たときは、その新聞名、月日も、より詳しい内容、活動から得られた経験とか教訓とかは、大会のときに報告してください。
- ◎ 今期の会計報告(1971, 8, ~ 1972, 6)は kongreslibro で。

## TEJA の合宿に参加して

TEJA恒例の焼津における合宿が、去る5月の連休5日間にわたって行われました。

私もなんとか都合がついて、親友のfino斉藤と2人で参加することができ、楽しい思い出をつくることができました。

参加者は、初級から上級まで120名くらいで、皆若い人(精神的に)ばかりでした。私のクラスには、s-ro中山という八王寺から参加した、もう60才は過ぎた若い方がいらつしゃいました。

朝8:30~9:50までkanboとbabiladoです。babiladoは3分ごと一つづつ席をずらして交代していくので、その度に名前と仕事と、札幌から参加したという、相手が「札幌から!」と驚いてまた交代といった具合です。本当は私がそれしかエスペラントで話せなかつたのです。

6日の合宿最後の夜は、海辺でkampfajroです。s-ro齊沢ともう1人の方2人で、頭に白いものをかぶり、上下白い衣をまとうつて座り、エスペラントで一生懸命(15分位い)お祈りをして火をおこしました。そのまわりで、二つの室が一組になつて、一つずつの出し物を披露しました。それがとてもおもしろくおかしいのです。

それに、エスペラント国の大統領選挙もあり、s-ro小西が再選されました。

そのような楽しい日々を過ごしたあと、来年こそは、より多くの人に、より多くの事をエスペラントで話しかけたいという思いがして、勉強する気がおきてきました。これが合宿の一番の目的でもあつたとは思いますが、今、エスペラントをやつていて倦怠期にかかっている方、もう一步エスペラントに入つて行けない方は、来年も焼津で行なわれるはずですので、是非都合をつけて参加なさるとよろしいかと思ひます。

★百聞は一見にしかず★

黒川 恵美子 (札幌 R・N)

エスペランティストのみなさまに

永戸良一 (苦小牧)

昨年秋から、エスペラントを学びはじめ、早や半年をすごしました。その間にいろいろなことがありましたが、感じたことを書きまわす。卒直に申しあげて、こんなにすばらしい、希望をもつた「ことば」が、世界史上に具体的に存在するとは驚きです。「なんだ、今さら、へんにおべつかつかうな」誰かさんに叱られそうですが、本当なのです。本心で申せます。

他民族を侵略しない、自国語を失わない、永い悲慘にみちた世界史に、失望から希望へ、対立から対話に、怒りからほほえみに変化する人類に、当然必要をせまられることばとして、世界史はザメンホフ師をはげまして創造されたものと信じています。

中国人民の偉大なる指導者 Maū Zedong 主席は

Sen enketo ne estas rajto de parolo !!

この名警句のある論文の終りの方で

「自分は、なにもかもわかつていて、他人がわかつていないだけだなどというようでは、けつしてない。全党の同志といつしよに、ひきつづき小学生になつて大衆に学ぶ。これが私の念願である。」

農村調査のはしがき (1941, 3, 17)

ことばを教えたり、学んだりする姿勢に通ずる論文です。私は、キリスト者の一人ですが、日本のキリスト教の指導者が、英語にたんのりであつても平和と希望と深い信仰から生れたエスペラントを学んでおられる人の少ないのには驚きです。にもかかわらず、みなさんは、こんなにすばらしいことばを知つておられ、また、学んでおられる、そして、より高い語学に進まれておられることに敬意を表します。これからは、ザメンホフ精神を大いに發揮して、エスペラントのエの字も知らない人々に、時に応じて、目を見はらせる程の情熱をもやしてみてください。冷たんな風を送ると、人々はますます厚いオーバーを着てねむるでしょう。あつい風を送りなさいよ。人々は裸になつて水にとびこみ、およぎはじめるのではないでしょうか。

みなさんの未来にすばらしい夜明けが訪れますよう熱望いたします。



## ロンドン大会に参加して

堀江 精一（遠軽）

4月10日に沢谷さんから、ロンドン大会参加記を書けというお手紙をいただきました。何んとか *nia lingvo* で書きたいものと苦心しましたが、実力がありません。止むを得ず日本語になつてしまいました。

昨年3月JBIから、ロンドン大会 *Karavano* の案内がまいりました。私のような未熟者がどうして外国の *nia* に行かれるでしょう。恥しいことだと思いましたが、日程を見ているうちに、しきりに食指が動きまわりました。これで海外旅行ができるではないか。少年の頃、欧州航路にあこがれたヨーロッパに行けるではないか。でも、皆さんの面よごしになつたらどうしようか、そして2カ月考えましたが、老先短いことだし、思い切つて申し込みました。

いよいよ7月27日、ベルギー、サベナ機で羽田出発です。晴れておりましたが、むしあつくて雲の多い日でした。 *nia karavano* は総計23人。その大半は外国になれた方です。肩身のせまい思いでしたが、はじめて雲間に富士山に別れをつけて鹿島たつ昂奮で胸が一ぱいになりました。南まわりで最初の着陸地はマニラです。夕方でしたので有名入日をさがしましたが、曇つていて残念でした。機中泊し、あけてアネ着。はじめてヨーロッパの土をふみました。間もなくブラッセルに上つて離陸、雲もありましたが、空は澄んで、アルプスの山々がはつきり浮んでいました。ブラッセル空港で中食をとり、エールフランス機に乗り換えて1時間ばかりでパリ着。ところが最初の宿泊地です。出口に向けて歩いていると、荷物車を押してきた男が、私たちの列を横切るとき「*アタクション シルブレン*」と叫びました。何んだ、ラジオとT.V.で習っていると *nia* のフランス語ではありませんか。パリでもそのと



りだつたとうれしくなりました。宿に入つてから、女中さんが部屋の片付けに来て、トランクは着いていないのかと言つたので、思わず「バザンコール」と答えました。それがもとで、karavanoの皆さんからフランス語通だと思われ、食堂の注文や買物の案内などおおせつかつて、やつと肩身がほぐれた次第です。パリの次はロンドンです。ホテルの女中さんが大しためんとい少女だつたので、パリで味を占めていきますから、いろいろ話しかけましたところチンチンカンです。フランス語より英語の方が自信があるんだが、女王英語のロンドンではやつぱりだめかとかつかりしましたが、実は彼女、スペインからひと月前に来たばかりとのことでホツとしました。

56a UKの開会式はピックベンの対岸、テムズ河沿いのロイヤルフェステバルホールです。同室の人とふたりで地下鉄で行きました。曇つた寒い朝でした。中に入つて開会を待っているとき、向うのろう下に振袖姿の日本娘がひとり席をさがしている様子なので手招きしたらよつて来て、となりに腰をかけた。この3月、高校を卒業するなり、5人の友人といつしよに、女ばかりで、ソ連経由でやつて来て、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン、フランスとまわっているうちにみんな別れ別れになり、当人は、UKに申込んでいたので2日前にロンドン着。

UKが終つたら仕事の口があるのでエジンバラに行つて9月末日本に帰るといふ話です。明治生れには只驚きでした。式場には約3千人が列席していました。ファンファーレにはじまつた開会式は厳粛で力強く、

ここに世界はひとつになつた という感激でいっぱいになりました。

Dro. J. Wellid(?) の英語国におけるエスペラントについてのお話は興味を持って熱心に耳を傾けたのですが、途中でどうとう分らなくなつてしまいました。帰りにテムズ河を渡つてピックベンの方に歩いてい

と、私の襟の verda stelo を見て、ひとりのしんしが声をかけて来ました。デンマークの古いエスペランティストで、若い頃は何度も UK に出ていたが、今回は申し込まず、私用でロンドンに来たと話していました。次の ~~日~~ 分科会です。ロンドン大学でやりましたが、会場があちこちはなれていましたので、のぞきに行くのに大変でした。karaval の皆さんが、なつかしそうに ~~諸君~~ gosamideanoj とお話ししているそばで、毎日うらやましそりに聞き耳を立てているばかりでした。\*

ロンドンでは、ひとり歩きが多かつたので、地下鉄にも、二階バスにも、1週間のうちにすっかり馴れました。とみ合つていて、からだがふれると「エクスキューズミー」とすぐ言うので、私もそう言うようにしたのですが、至つてやさしい言葉ですけれども、何んがか空々しい気持でした。ある時、思わず「失礼」と日本語が出てしまいましたら、相手の人によく通じました。実感がこもつていたからでしょう。トインビーのエスペラント反対論を思い出しました。

8月7日、ルフトハンザ機でロンドンから一路西独フランクフルトへ飛びました。ゲーテの生れた所でゲーテ記念館があります。うまくて安いソーセージを夜店でたらふく食べました。次の日はライン下りでローレライの正体を見ました。その辺、ラインの水は真黒で水泳禁止です。

8月9日、貸切り大型バスでフランクフルトを出発。ハイデルベルクによつて古城と大学を見物。ネッカー川もきたない水でした。その晩、ドストエフスキーの賭博者の舞台となつたバーデン。バーデン宿場バリからずつと、どこへ行つても日本人の団体がいつばいでしたが、この地だけは観光客がなくて、玉様や金持ちの有閑博徒でのんびりしていました。賭博場は市営で緊張り公務員は燕尾服姿で真面目な顔をしていました。翌10日、フランクフルトを通過してアウトバーンを一踏ス

スに向つて走り続けました。ロンドンでは日に1度か2度は雨が降つてひやつとした陽気でしたが、大陸へもどつてからは、またずつと快晴続きでさわやかでした。スイス国境にラインの源流ラインフォールがあつて、そこで中食をしました。水の澄んでいること、水玉の輝きの美しいこと。この水をずつとよごさずに下流まで流すようにしたいものです。

次の日、バスとケーブルでアルプス連峰のひとつ、エンゲルベルグに登り氷河の一角にちよつとさわつて見ました。沿道の農家は、まわりに薪を高く積み上げていて、北海道のことがほほえましくしのばれました。チューリッヒにもどつてから、北海道教育大学の三沢先生といつしよにベスターロッテの記念物をたずねましたが、もう生地では人々の関心がうすく、いろいろ聞いて歩きましたがついに分りませんでした。

明けて8月12日、バスはチューリッヒを出て湖に沿ひ、氷河のあるアルプス連峰に平行して走ります。リヒテンシュタインでバスを降りてひるめしを食べました。この国は、人口2万たらずで王様がいます。食堂がこんでいましたので3人の婦人のいるテーブルに割り込ませてもらいました。その人たちはスイス人でドイツ語をつかいます。私が勘定をするとき、貨幣をあれこれと調べているのを見て、ヨーロッパ旅行は通貨が国毎にちがうので大変だろうと同情してくれました。カレルギーの発想に従つてヨーロッパはE.C.に向つています。通貨も言葉ももつと便利になるといいですね。リヒテンシュタインを出るとオーストリア・チロルです。ジュナイダースキー学校などあります。その晩、インスブルックに泊りました。夜チロルアンサンブルの公演を見に行きました。グシュピステル・グンドルフという小さな民芸団ですが、郷土色豊かで素朴で人なつつこく、大変気に入りましたので、その絵葉書を芸団の女優さんの所に買いに行きましたら、その女優さんが仲間の人々に向つて

「ディーゼル マン スプリット ドイツェ」(この方ドイツ語を話しますよ)とうれしそうに叫んだのには感動しました。おたがいに分つてこそ言葉です。次の日、バスはブレンナー峠をこえてイタリアに入りました。ベニスの宿ではイタリア 에스ペランチストの来訪をうけました。サンマルコ寺院の広場にはヒッピーがたくさんいました。アメリカ人が一番多いようです。晴天続きでしたから、峠の向うではさわやかでしたが、イタリアに入つてムツソリーへの作つた太陽道路を南下するに従つて猛烈な暑さになりました。フィレンツェにもローマにもヒッピーがゴロゴロしていましたが、野宿に都合がよいからでしょう。

ローマでドルショックにあい、銀行に行つて1日20ドル換えてもらうのにいろいろ審問検査をされて閉口しました。

この karavano もローマが事実上の終着駅です。バスのエスコートに入つて、みんなで分散会を やりました会場でふんだんに歌われた本邦のカンツォーネは、今でも耳に残っています。

8月18日ローマ空港を出発、夕方アテネでサベナ機に乗り換えました。サベナはベルギーの航空会社です。スチュアデスはベルギー娘ら1人、タイ娘、そして日本娘が各1名乗つていました。機内のアナウンスは、はじめベルギー語、それからフランス語、ドイツ語、英語の順に放送し、最後に日本人スチュアデスが日本語でやりま日航と特約している日欧線ですから乗客は殆んどヨーロッパ観光帰り日本人でした。通路にいた日本人スチュアデスに向つて、日本人乗客 ブリーズ と呼びかけましたら、そのスチュアデスはきつとふりかへて 日本語が通じますよ と甲高く叫びました。生活体験から来た： 国語の支配をうけたくないという切実な気持の表われでしょう。

沖縄上空でうす暗くなり、8月19日夜10時羽田に帰つて来ま

UK参加記のご依頼でしたが、天皇訪欧記と同じようなものになつてしまつて苦笑しております。しかし、単一言語国の日本を離れて1ヵ月近く、少し行くと言葉も通貨もちがう国々をまわつて来てよい経験をしたと思います。エスぺラントが生れてからもう一世紀近くになりますが、その発生地ヨーロッパでも人々が一番知らない言葉はエスぺラントでしょう。まだ世界の人々にはほんとうの国際生活がないからではありませんか。現実はその必要を迫つております。私も心を新たにして勉強しなければなりません。何とぞ皆様のご指導をお願い申しあげる次第です

### El mia vojaĝo tra Eŭropo

木村 洋子(茗小牧)

ちよつと機会があつて、4~5月にかけて2週間ほどヨーロッパを廻りました。ESPとは全然関係のない旅行だし、誰にも黙つて出るつもりでしそが、S-ro星田にかぎつけられて、F-rino 永田明子や Del-  
gitoj de UEA の連絡先など教えられて出発しましたが・・・

同行グループの人が画家、デザイナー、コピー・ライターなどさまざまの職業の人で面白い旅でしたが、自由時間も、あれこれと見ることが多く、忙しいものでした。

#### ◎ わざと英語を使わぬフランス人

パリには5日もいるので、できればロッテルダムのUEAへでもと聞いてきた番号を示し、ホテルのフロントでおぼつかない英語で電話をたのみましたが、2日つゞいて応答なし。4月30日は日曜、つゞく5月1日はメーデーで多分向うも(UEA)休みなのだらうとのことでした。話には聞いてはいましたが、フランス人は英語を使いません。それも全然知らないわけではなく、わかつてはいるのに、外国人に

対しては先づフランス語を使い。"プリーズ、プリーズ"とたのんでやつと最少限の英語を使い。英語しか使えない日本人同志では"シヤクだわね"なんていつてましたが。フランス語に対する自尊心でしょうか。英国ではテーブルマナーなんか、困苦しいふん困気、それに対し、全然そんなものをかまわぬフランス 対照的でした。

◎ F—ino 永田明子と話す (nur telephone)

結局、連絡がつかないうちに日が過ぎて、5月2日、ようやく電話が通じました。先方が出たとのフロントの合図でボックスに入り、受話器をとると"ハロー"ときた。さてこれからESPを使わねばならない。

"Cu U—A—A?"

"Jes.."

"Bonvole donu al mi F—inon Nagata.."

"Atendu....."

ESPを使つたのはここまで。"もしもし、もしもし・・・"とすぐせきこんんだ声のとびこんできました。

"小牧の木村です。星田さんからよろしくつて言つてました。実はもつと早くからバりにいたんですが連絡がつかなくて……。ほんとはロツテルダムまで行きたかつたんだけど……"

"あゝそりなの、ゆつくりできればよかつたのに……"と残念そう。

"お元気ですか?"

"元気 元気! 今度はぜひオランダだけを見にいらつしやいよ……。気をつけて、楽しい旅行になるようにね……。ほんとにわざわざありがと……。"とこんな調子でした。あとで聞くと、8日に結婚されたとのこと、驚きましたが、全然その話しはありませんでした。

◎ イタリヤでESPを通じた電話

イタリアでも、ホテル以外ほとんど英語は通じません。レストランでも、日本  
人は時々話しが通じず困ることがあります。新しいコップをもらいた  
いので、誰かが英語でいつてみたが通じない。ためしに

"Bonvole novan glason....."

といつたら、オーと笑つてもめてきてくれました。水を入れたら、ごみが  
浮いているので、かえてもらおうと"Rigardu!"と指さしたら、"オー  
ペルドン(?)"とESPのままの会話のようになつて、ボーイがきれいなコ  
ップにかえてくれました。

注) ESPとイタリア語には似た単語も多く、こんなことはよくあるよう  
です。s-roj 梅田善美、出口京太郎はイタリア旅行中、こちらはESP  
で、イタリア人の話し相手はイタリア語で話しながら、結構、あらゆる  
話題を話し合えたそうです。

## INTER NI

◎ s-ro 池本盛雄

"住宅難のおかげで、幸か不幸かビルの群を眼下に見下す高台の一隅に  
どうやら落ちつけそうな寓居を見つけることができた。"とのこと、  
新住所は

450 静岡県浜松市三組町45-4 葵荘

◎ s-ro 大島俊之

北見工大 開発工学科の助手に

090 北見市寿町4-5-3 龍田方

◎ s-ro 児玉広夫

道総務部税務課長補佐として再び札幌へ!

065 札幌市西区琴似八軒7条西6-551-3

◎ eksf-ino NAGATA Akiko

去る5月8日ロツテルダムの市役所で WOEESINK Evert J氏と結  
婚! もちろん新郎も esperantisto. おめでとがり!

Nova adreso; Onder de Beunkes 29, NL—6200—Velp  
(Gld.), Nederlando

◎ E-ro Josihara は、都合に I り、Portlanda UK の参加を取り  
た。Ĉu neniu el Hokkaido partoprenos en la UK ?

ESPERANTO KAJ ESPERANTISTOJ EN ĴURNALOJ  
KAJ GAZETOJ

◎朝日ジャーナル 5月5日号 “近代日本と中国”シリーズの中に“  
シエンコと長谷川テル”について高杉一郎が8ページにわたって書  
いる。

◎社会新報 5月7日号 前TEJA委員長の芥沢潔が投稿。“社会運  
不可分の一翼をになう言語運動としてのエスペラント運動が、社会  
展の中で正しく位置づけられ、認識され、理解されなければならな  
とを強く訴えるものです”と結んでいる。

◎室蘭民報 5月11日夕刊に写真入りで 苫小牧エス会が環境汚染  
対の立場から、北海道の自然を描いた水彩画を、ニューヨーク、ロ  
ン、パリの同志にエスペラントで書かれたあいさつ文とともに手渡  
り、苫小牧市議会議員の視察団員に託すと。同じ日の朝日新聞室書  
も出た。

これは、TESの有力会員であるE-ro 永戸の積極的働きかけ  
つたもの。

◎最近、大修館から新しく発刊された専門誌“言語”6月号読者欄に第  
一が“人間語の論理と機械語の論理”と題して、エスペラントにも  
ながら書いている。

◎朝日新聞(室蘭版)に、<sup>写真付</sup>さらに苫小牧エス会が託した水彩画に手  
札がパリから届いたことを。



Lernantas.....? Sciintus.....?  
(エスペラント文体の進化は印欧語の逆行か?)

星 田 淳 (苦小牧)

Leontodo N-ro 45(1971, dec.)に mi lernantas esperanton  
という文があり、"こんな文はどうだろうか"との疑問も出されていた。こ  
の形、ne-zamenhofaではあるが、ne-zamenhofo 即ち ne permesata  
でないことは、lingvaj respondojで Z. が onia, onin なども認めて  
いるところから明らか。私自身、やり始めの頃、さかんに lernantas,  
surprizitasなどを使つた事がある。もちろん、標準的な形として使われて  
いるのは、estas ~ anta, 又は ~ ita の形であり(これを分析的形態  
analitika formo という)、lernantas のような合成語形態(sintez  
formo)は使わなくなつていた。

1 lernantasは誤りか?

しかし、この形が間違ひとも思つて止めたわけではなく、考えてみても、  
ESP. の単語合成の規則に反するものは全くないので、この形は使われて  
いいものと思う。

2 sciintusとなると、ESP. の ~ us に時相がないので、分析的な estas  
~ intaでも sciintusでも必要な場合が多い。

UEA の Lingva Servo, A.D. Atanasov はこの問題について"この形は  
ESP. の造語法から正しく導かれるものであり、分詞形の動詞化、即ち

sciinta sciintus, sciintas

は、従来も例のあつた形容詞の動詞化

prava —→ pravas

grava —→ gravas

と同様のものであり、文体に変化と活気を与えるものだ"と賛成している  
(Esperanto, feb. 1971)

また、Plena Gramatiko de ESP.でも、sciintus等は、条件法の  
相を明示する有効な方法としてあり、他に次の例もあげている。

Laŭdatu Jezu — Kristo !

この点については、東ドイツの der esperantist でも (Jul. — August)

1971) ても、TEJO(世界エスペラント青年組織)大会での青年たちの話し方について、analitika より sinteza formo が好んで使われる傾向をのべ、その1例に、この sciintus をあげている。

3 Perferemo sinteza formo la analitika de esperantisto のあげている他の例は、もつと面白い。

iru vespermangejen = al .....

sloganmarŝo cefplacen = al, sur ~ en

invitatas, petatas = estas ~ ata(j)

前置詞を使い形より、語尾変化 ~ en で場所、方向を示す形の方が好まれるらしい。ヨーロッパの言語では古くかは皆名詞の格変化により、外の単語との関係を示していたが、だんだん格変化が消えて、今のように前置詞を使い形が一般化した。この ESP. 会話の最近の傾向は、このインドヨーロッパ語の一般的傾向に逆行して、語尾変化を活かしていることとするもので、日本語の助詞「てにをは」に似た感じとなる。こんな点、Lingvo internacia にふさわしい、さまざまな用法が、ひとつの言語の中に生きているわけで面白い。

## EL NIA LETERKESTO

Takatuki, 29/aprilo/'72

Estimataj sinjoroj:

Kun danko mi ricevis vian organon; LEONTODO n-ro 46. Antaŭ kelkaj aŭ dekelkaj jaroj dumtempe mi abonis Leontodon, kiu estis ampleksa simile al la nuna laŭ mia memoro, sed la enhavo fariĝas pli altnivela, tiel mi supozas. Precipe, traduklabore de Jukaro estas tre alte taksinda, ĝi alportos grandan kontribuon al esperanta literaturo, mi kredas. Mi esperas, ke la labore subskribita laŭ daŭra persista kunlaborado de la volontuloj.

Nur danksaluton, tute via

Tanaka Sadami  
(subskribe)

Takatuki Esperanto-Societo

## PLIALTIGU . . . ESPERANTO-MOVADON EN HOKKAJDO!!

Kie estas la kaŭzo de la malvigleco de nia movado en Hokkajdo? Ĝenerale oni trovas la kialojn de malviveco en 1. kvanta kaj 2. kvalita aferoj.

Unue pri la malvigleco de la movado, kaŭzita de kvantigeco. Malvigleco pro kvanto signifas nur solan staton, "manko de 1'aktivuloj". La rimedo, kion oni plej ofte uzas por plenigi la "manko"-n, estas "kurso".

Por kolekti plej eble multajn homojn al la kurso, preparo ĉiutaga estas necesa. Ni devas ĉiam propagandi pri Esperanto al niaj ĉirkaŭuloj. Sen tio, nur per afiŝoj, flugfolioj kaj ĵurnalanoncoj momentaj, ni povas kolekti nur malgrandan konscian parton. Estas unu el nia gravaj devoj, kiel konsciigi la nekonscian parton. Tial ni devas prepari ni por publikanoncaj agoj, ekzemple kurso, tra ĉiutaga propagando.

Due, pri la malvigleco pro kvalita afero. Kvalita kaŭzo estas antaŭ ĉio "malalteco de problemkonscio" pri Esperanto. Ne nur en Hokkajdo sed, ni povas diri, en japana movado, kiom da aktivuloj agas kun "problemkonscio" pri Esperanto? (Bedaŭrinde malmultaj, mi pensas) Tio havas profundan rilaton kun la enhavo de lernolibroj, kun la arango de kursoj. Ĉar oni instruas nur la lingvon Esperanto, sed ne Esperanton. Ĉu la kono de la gramatiko kaj la historio estas sufiĉa? ---Ne!! Do, kio alia estas?

Kial naskiĝis Esperanto? Kiu estas la vojo kiun Esperanto devas iri de nun? Kaj kion devas ni fari? Kiel Esperanto estas difinita en sia pozicio, en ĉi tiu ŝanĝanta socio? ---Ĉu iam oni faris tiajn diskutojn? Ĉu la gvidantoj de nuna Esperanto-movado en Hokkajdo klare povas respondi supreskribitajn demandojn?

Ĉi tiu agado kun "problemkonscio" estas ofte kaj facile ignorata, sed ĝi estas tre grava problemo. Tion parolas la disvolvigo de 1'Esperanto kulturo de la epoko proletara

esperanta en la 1930aj.

En la komenco de ĉi tiu artikolo mi dividis la kaŭzojn malaktivecajn en la kvantitan kaj la kvalitan, sed fakte ĉi du faras movadan malviglecon en la formo miksita.

Tamen se ni venkos unu kaŭzon, ni povos venki alian, en nia movado ekzistas kvanta kaŭzo, sed pli granda problemo estas kvalita. Por venki ĉi tuin kvalitan kaŭzon, ni devas propagandi ĉiutage. En tiu agado ni devas retrovi la problemon, kion ni ne multe pensis, kaj plifortigi nian ideologion Esperantan, samtempe ni povas multigi la simpatiantojn, pro klarigi la signifon de l'ekzisto de Esperanto en nuna tempo.

De hodiaŭ ni devas komenci nian agon. Tra ĉiutaga propagando ni devas plialtigi la konscion de la popolo de Hokkajdo pri lingvaj problemoj, speciale pri Esperanto, kaj dume gajni nian fortigon de l'Esperanta ideologio.

**NI BATALU POR PLIALTIGI L'ESPERANTO-MOVADO EN HOKKAJDO!!**

Ne forgesu, ke Esperanto estas ne sole simpla lingvo, kiun ĉiu el ni uzas nur por siaj propraj bezonoj, sed ke ĝi estas grava socia problemo. (D-ro Zamenhof)

(5)

Tajpantino (ne tajpietino) de Leontodo

からお願い!

この号から、みなさんのご協力により購入されたタイプライターを使わせていただいております。もう8年以上も前のことですので、その当時のスピードは出ないまでも、前号より時間が短縮されますので、たいへん助かっています。しかし、一応、タイプを打ち上げるのはLeontodo発行月の前月末日までという沢谷さんとの事前の打合わせによつて、仕事その他の調整をしておりますが、今号はほとんど参りました。6月発行だから、5月中に打ち上げるといふことで、5月から8月にかけて例年決つてしなければならぬ残業を6月からといふことで予定していましたが、連日残業に入つたとなんて原稿が届くといつたハメになりました。それも、ご覧のとおり、今号にのせなければならぬものがほとんどで、さりとてLeontodoの発行時期をおくらせるわけにもいかず、今のところ、私の一存で仕事の予定をある程度変更できるとはいふものの、これ以上仕事のペースをくずすわけにもいかずに閉口しました。何を泣きごとをとおつしやる方もいらつしやるかも知れませんが。。。。。

原稿の内容によつて、また、時期によつて、少しぐらいおくれてもよいものならともかく、一応原稿のメ切日をお守りくださつて、もつとスムーズにLeontodoが発行できるようにと協力をお願いしたいと存じます。



キタバタケ (Kitabatake, H.)  
編 集 ノ ー ト

★ 和タイプを購入したことにより、たいへん読みやすい機関誌になり

ました。しかし反面、タイプ打ちを引き受けてくれた北島さんには、機関誌が直線になればなるほど、又大きな労力を提供していたたことになりま

★ 若小袋大会よりはや1年近くたつてしまいました。この1年間に私たちの

★ ともかくも #70 44より4号の編集をするハメになりましたが、一番悪れた

★ 書まざる意図的に歩いていくことまで #70です。(Sawaya)

## KIO ESTAS DUONKONDUKTANTO?

Iĉikaŭa Tadaŝi (Hakodate)

Sen la ekspluatado de duonkonduktantoj, neniu povintus atendi la lastatempam disvolvigon de elektroniko, ekz. elektro-korespondado, komput-maŝino ktp, mi pensas. Ĉar transistoro, diode k.a. estas faritaj de la kombino de pluraj duonkonduktantoj. La tempo de vakua tube estis jam pasinta.

Ĉiu materio konsistas el unu kerno kaj kelkaj elektronoj, kiuj ĉirkaŭflugas sur orbitoj ĉirkaŭ la kerno. Ĉiuj orbitoj estas deciditaj laŭ energiniveloj de la elektronoj. Kompreneble kelkaj el ili estas sur la plej malproksima orbito de la kerno.

La forto de la kerno inverse propicias al la kvadrato de distanco. Tial, se la ekstera potenco estas donita al la plej malproksima elektrono de la kerno, ĝi elflugas el sia orbito. Oni nomas ilin liberelektronoj. Tiamaniere moviganta elektrono formas kurenton. Cetero laŭ la promeso, oni nomas "kurento" la retro-direkton de la elektronfluo.

Konduktanto estas la materio, kiu enhavas multajn liberelektronojn. Sekve la rezisto estas tre malalta. Sed izolajo ne estas tia. Pro tio la rezisto estas ekstreme alta. Kaj duonkonduktanto estas materio, kiu havas relative altan reziston. Kiel oni bone scias, diamanto estas kristalo de karbonaj atomoj. Tiukaze ĉiu atomo havas kvar liberelektronojn sur la plej ekstera orbito. Sed tiuj ĉi elektronoj ludas rolon forte kunigi ĉiun atomon al la najbaraj en la kristalo. Plie tiu ĉi kunigo estas tiel forta, ke ordinara ekscito ne povas doni influon al la strukturo de kristalo. Nome, diamanto estas tre stabila izolajo.

Ankaŭ germaniumo kaj silicio havas kvar liberelektronojn po atomo, kaj povas kristaligi. Sed la atoma kunigo estas pli malforta ol diamanto. Tial malforta ekscito (ekz. iomete varmigi, doni lumon aŭ malaltan tension) povas facile elpeli partajn liberelektronojn. Ordinare elektrono kunportas minus-elektron. Plie, en la okazo de duonkonduktanto, "truo", el kiuj elflugis jam elektronoj, kunportas plus-elektron, t.e., kompare kun konduktanto, laŭ la diferenca principo, fluas la kurento en la duonkonduktanto. (daurigota)

\*\*\*\*\*

duonkonduktanto 半導體 liberelektrono 自由電子  
izolajo 絶縁体 kurento 電流 silicio シリコン

*Rakonto de Dio Strigo pri si mem* ( daŭros de n-ro 46 )

- 260 Kun larmo kaj ploro  
diris li en adoro  
tiujn vortojn.  
Kaj li, la maljunulo  
ekstere
- 265 hakis lignon por inaŭo,  
kiun li faris tre bele  
kaj ornemis min bone.  
La sinjorino maljuna,  
zonon metinte nete ĉe l' tali'
- 270 ordonis la knabeton  
preni lignon por brui,  
preni akvon,  
por prepari sakeon.  
Baldaŭ, dum momento jam  
275 ses barelojn oni metis  
en la honora angulo.  
Kaj mi havis ĝuan tempon  
interparoli kun Diino,  
Diino Fajro maljuna,
- 280 pri diversaj aferoj  
de la dia regno nia.  
Post du tagoj  
odoro de sakeo,  
la ŝataĵo de la dioj,
- 285 ekŝvebis  
en la domo.  
Do ili sendis  
la knabeton  
intence
- 290 en la vesto malnova  
al la riĉuloj  
en la vilaĝo,  
estintaj antaŭe malriĉaj,  
por inviti ilin
- 295 al la festeno.  
Mi sekvis okule  
la knabeton.  
Kiam li vizitis ĉiun domon  
kaj anoncis invite,
- 300 la riĉuloj,  
estintaj antaŭe malriĉaj,  
nur mokis ridegante,  
"Mirinde, ho dio!  
Kun kia sakeo

305 kaj kun kiaj frandaĵoj  
 kuragis la malriĉulaĉoj  
 nin al si inviti?  
 Ni iru kaj ridu moke,  
 spektante, kion ili  
 310 prezentos do  
 antaŭ ni!"  
 Kvankam ili multope  
 venis amase kaj babile,  
 surprizitaj pro l' rigardo  
 315 el la fero de la domo  
 bele ŝanĝinta sin ununokte.  
 Pro hontemo de sia koro  
 kelkaj tuj retiris sin,  
 kelkaj venis domfronten  
 320 kaj ne povis stari pro miro.  
 Tiam la sinjorino,  
 dommastrino maljuna,  
 montris sin eksteren  
 preni manojn de ĉiuj;  
 325 por enigi ilin.  
 Ili ĉiuj envenis  
 rampe sur la genuoj,  
 neniu tiam kuragis  
 saluti la domanojn.  
 330 rekte vizag' al vizag'.  
 Kaj la mastro  
 de la domo  
 starigis por salutadi  
 kaj l' aferon klarigi.  
 335 Li parolis tiel klare,  
 kiel kukolo arbare,  
 kio kaŭzis, kiu ŝuldis,  
 kiel okazis, rezultis.  
 "Pro nia ĝisnuna povreco,  
 340 kun vi amikiĝi ni ne povis.  
 Tamen en ni, Dio peza  
 nenian malicon trovis,  
 nia pro kompato dieca,  
 per la donacoj favoris,  
 345 kiel vi vidas, jen tiel.  
 De nun ni  
 ĉiuj vilaĝanoj,  
 fratoj, idoj de  
 sama klanó,  
 350 estu en amikeco,



- 351 ĉiam vizitadu reciproke,  
tion mi deziras elkore  
al vi, sinjoroj de la vilaĝo."  
Aldinte tion
- 355 la sinjoroj  
pardonpetis de la mastro,  
kun la manoj kunigitaj,  
ĵuris, ke ili de nun estu  
ĉiam bonaj amikoj.
- 360 Ankaŭ riverencis min ĉiuj.  
Tiam  
ili ĉiuj  
kun milda koro  
festenis en gajo.
- 365 Ĝuante interparoladon  
kun aĝa diino de la fajro,  
dio maljuna de la domo,  
kaj aĝa diino nusa-eja,  
pri diversaj okazaĵoj,
- 370 mi amuzis min  
per la rigardo de  
homaj dancoj variaj.  
Pasis du tagoj,  
tri tagoj,
- 375 finiĝis la festeno.  
Kun la koro jam trankvila  
pro la paco kaj amikeco,  
plena inter la vilaĝanoj,  
mi salutis adiaŝe
- 380 la diinon de la fajro,  
dion aĝan de la domo,  
kaj diinon nusa-ejan.  
Kaj mi revenis  
al mia domo.
- 385 Jam antaŭ mia atingo  
estis mia domo  
plena de  
belaj inaĵoj  
kaj bona sakeo.
- 390 Tiam mi sendis informanton  
por inviti diojn  
proksimajn  
kaj malproksimajn  
por festeno grandioza.
- 395 Ĉe la festeno mi parolis

- 396 al la dioj  
mian sperton  
kiam mi vizitis  
homan vilagon,  
400 kia estis la situacio,  
kio okazis tie.  
Pro mia rakonto ĝis detalo  
la dioj laŭdis min  
pro mia faro.  
405 Kiam la dioj forlasis,  
mi al ili donacis  
la belajn du aŭ tri  
inaĵojn por ĉiu.  
Nun mi vidas,  
410 ke en la homa vilaĝo  
ĉio estas en paco,  
homoj amikas reciproke  
sub la ĉefo, la mastro  
de l' familio tiam povra.  
415 Ankaŭ la knabeto tiama  
nun estas jam plenaĝa,  
havante edzinon  
kaj idon,  
servas bone kiel filo,  
420 al la patro  
kaj patrino.  
Kiam ajn sakeon  
faras ili,  
komence de la festeno  
425 ili kultas min ĉiam  
donante inaĵojn  
kaj sakeon.  
Do, ankaŭ mi  
sidas ĉiam  
430 post la homoj,  
la vilagenoj,  
kaj gardas  
homan landon.  
— tiel Dio Strigo rakontis.

(fine)

Tradukis A. Hoŝida

RAKONTO DE OKIKIRMUJIDO "ĈI SABLO RUĜAS, RUĜAS."  
(Pon Okikirmuj jajejukur "Tanota hure hure")

Jukaro tradiciita en Horobecu  
Prove tradukis A. HOŜIDA

- 1 Tanota hure hure  
lun tagon  
kiam mi promenis laŭ la rivero,  
diablidon mi vidis,  
aspektantan ĉiam bela.
- 5 Lia vizago estis bela.  
Nigran veston surmetinte,  
tenante mane pafarketon,  
kaj sagetojn el jugland',  
ridetante al mi
- 10 li diris.  
"Venu kunludi, Okikirmujido!  
Nu, neniigos mi fiŝojn."  
Dirante tion,  
per pafarketo el jugland'
- 15 kaj sageto el jugland'  
pafis li la elfluejon,  
de kie ekfluis akvo juglanda,  
akvo malpura.
- 20 De la akvo el jugland'  
venenite la salmoj,  
retroŝvebis al direkto,  
de kie ili venis nun.  
Tio ĝoje rigardante  
la diablido ridadis.
- 25 Ĉar mi sentis koleron  
rigardante l'aferon,  
la elfluejon mi pafis  
per argenta pafarko kaj sago,  
kiujn tiam mi havis.
- 30 Tiam de tie elfluis  
akvo argenta, akvo pura.  
Revigligis la salmoj,  
retroŝvebintaj kun ploro,  
ĝoje kontraŭfluen jam,

35 venas ili kun ĝoja krio,  
 laŭta ridado, babilado,  
 kaj plaŭdado, en serie.  
 Montris la diablido tiam,  
 koleron flame sur vizaĝ'.

40 "Se vi aŭdacas  
 fari tion,  
 neniigos mi la cervojn!"  
 li kriis kaj pafis  
 en la vastan ĉielon

45 per pafarko juglanda  
 kaj sageto juglanda.  
 Tiam de la arbaro  
 venis vento juglanda,  
 vent' kirla, de l' montaro.

50 De l' arbar' sur monto  
 cervoj kune en grupo  
 kaj cervinoj en la alia,  
 forblovigis de la vento,  
 supren al ĉielo, en vicoj.

55 Ridante rigardis la diablido.  
 En mi kreskis kolerego,  
 pafis mi per argenta  
 sageto kaj pafarketo,  
 cele al cervaj grupoj.

60 De la ĉiel' ekblovis  
 vent' argenta,  
 vento pura.  
 Al arbar' monta ĝi ŝovis  
 cervojn kune en grupo,

65 kaj cervinojn aligrupe.  
 Tiam la diablido montris  
 sian ĉiaman koleregon,  
 kvazaŭ survange flamon.

70 "Se vi arogas tiel,  
 intence min provokas,  
 do ni havu lukton por duel'!"

Dirante, veston li demetis.  
 Nur en ĉemizo maldika,  
 kaptis mi lin per brakoj.

75 Ankaŭ li, tre fortika,

76 kaptis min per brakoj.  
 De tiam ni luktadis  
 aŭ sur aŭ sub de la alia,  
 reciproke baraktadis.  
 80 kaj mi miris, kiom forta  
 estas la diablido.  
 Tamen ĉe la fin'  
 mi levis lin  
 ĝis sur miaj ŝultroj  
 85 per mia tuta forto  
 de l' kokso kaj brakoj,  
 kaj alĵetis lin  
 sur la rokojn  
 de fora monto.  
 90 Iom longe la sono daŭris,  
 tamen baldaŭ silentigis.  
 Kaj post tio mi aŭdis,  
 irante hejmen laŭflue,  
 salmojn ridi kaj ludi  
 95 en la rivero, kaj vidis  
 ilin plaŭde suprenagi.  
 Sur l' arbaro de la monto  
 eĥis ridoj kaj krioj  
 de la cervoj, cervinoj,  
 100 ĉie, plene ĉirkaŭ mi.  
 Tie kaj ĉi tie ili manĝis  
 senĝene la herbojn, mi vidis.  
 Kun koro pro l' vido trankvila  
 revenis mi al hejmo mia.  
 ---tiel rakontis Okikirmujido pri sia ĉaro.

JAPANA-ESPERANTA VORTARO POR. MI (2)

- ak jôsaô 亜共晶の(鉱) Hamada K. (Hamonaka)  
 hipoeŭtekta.  
 akka 悪化(医) depravacio  
 akkeŝiŝo アッケシソ-(植)  
 salikornio  
 akkô 悪口 insulto,  
 ~をいひふらす klaci  
 ~雑言 blasfemo  
 ako 亜銅 subklaso  
 アコ〜ダイオン(薬) akordiono<sup>s</sup>  
 akogare あこがれ sopir(ad)o  
 あこがれる sopiri  
 アコニチン(化) akonitino  
 アコニツト(薬) akonito<sup>s</sup>  
 アコラド(騎士叙任の抱よう・平手  
 うち(ヨ史) akolado  
 アコリオン(植病) favofungo  
 aku あく lesivo  
 (化) potaso,  
 ~で洗う lesivi  
 アクアテント(術)(美) akuvatinto<sup>s</sup>  
 ~版画を作る ~i  
 akubi あくび oscedo  
 ~をする pf. ~i  
 アクチブ(人)(政) aktivulo  
 アクチン(化) aktino  
 アクチニウム(化) aktiniumo  
 アクチノミスケ(植) aktinomiceto  
 akueki 悪疫(医) epidemio  
 akuekiŝicu 悪疫質(病) kakeksio  
 ~o ~a  
 akuhicu 悪筆(語) kakografio  
 skribaĉo  
 akuhjô 悪評の malbonfama  
 akki 悪気 haladzo,  
 ~を放つ ~i  
 akui 悪意 malice, ~の marica  
 malbona, ~の仕うち malicaĵ,  
 ~のない senmalica  
 ~のある f. venena  
 akuma 悪魔 diablo, ~に食われ<sup>ル</sup>  
 Diablo vin prenu!  
 ~的な demona  
 ~的な人 demonulo  
 akumu (男)悪夢 sukubsonĝo  
 (女)悪夢 inkubsonĝo  
 akurjo 悪霊 demono,  
 (エフリット)(回) efrito,  
 ~の demona, 信 demonisa  
 ~つき(人) demonhavanto,  
 ~研究 demonologio  
 akuse 悪性の(病) maligna  
 akutoku 悪徳 malvirta  
 アクリル酸(化) akrilata acido  
 ~塩(化) akrilato<sup>r</sup>  
 アクロコルドウス(動) akrokordo  
 アクロポリス(都城)(洋) akropolo  
 アクロレイン(化) akroleino  
 アクロテリオン(建) akrotero  
 akuseku あくせく働く  
 f. servuto  
 アクセント(文) akcento

~母音(語) toniko<sup>s</sup>  
 アクセル(自) akcelilo  
 アクセサリー(服) akcesora  
 akuŝu 握手する manpremi  
     ~を求める peti manon  
 akutai あくたいをつく f・blasfemi  
 アーク燈 arklampo  
 アークトールス星(天) Arkturo  
 ama アマ(植) lino,  
     亜麻布(織) bisino  
 amacubame あまつばめ(鳥) apuso  
     cipŝelo<sup>s</sup> (CYSELUS), km.  
     Apuso pacificus,  
     salangano(三宅;海つばめ)  
     km. あなつばめ COLLOCALIA,  
     ~の巢(料) salanganneŝto  
 アマチュア amatoro<sup>s</sup>  
 amadokoro アマドコロ(植) p  
     poligonato  
 amagaeru あまがえる(動) hilo  
 amagappa 雨がつば pluvmantejo  
 amai あまい malsevera,  
     甘い doĵca,  
     甘いささやき flirtaĵo  
     甘い汁(茎・葉・虫などからでる)  
     mielroso  
 amajakasu 甘やかす dorloti  
 amanjita 甘んじた kontenta  
 amamo アマモ(植)・マオステロ<sup>s</sup>  
 amaneku あまねく旅する  
     travojagi  
 アマニチン(化) amanitino  
 アマニ油(化) linoleo  
 amaoke 雨おけ pluvojo  
 amarihimo 余りにも・・すぎる  
     (副) tro  
 アマリリス(植) amarilido<sup>s</sup>  
 アマルガム(化) amalgamo  
     ~を作る ~i  
 ame あめ(菓) ameo<sup>\*</sup>  
 アマゾン(キ神) Amazono<sup>s</sup>  
     ~川 ~o  
 ame 雨 pluvo, (悪口の) f・torento  
     ~が降っている pluvas  
     ~のもらない pluveltena  
     pluvimuna  
 アメーバ(動) amebo,  
     ~状の(生) ameboida  
     ~症(病) amebozo  
 アーメン(キ) amen<sup>s</sup>!  
 アメリカ Ameriko  
 アメリカボウフウ(植) pastinako  
 アメリカだちよう(鳥) reao  
 アメリカはげわし(鳥) katarto  
 アメリカやぎゆう(鳥) bizono<sup>s</sup>  
 アメリカ人 usonano  
 アメリカもぐら(動) kondiluro  
 アメリカむくどり(鳥) bobolinko  
 アメリカわに(動)アリゲーター aligaturo  
     aligaturo  
 アメリカシウム(元素)(化) americio; Am  
 ami あみ ŝnuraro, 網 p.f. maŝaro

網(えび・とりなどの) ~~amoko~~,  
 網 reto,  
 網で捕える retkapti  
 網にかかる p.f. enretiĝi  
 アミアンチウム(植) amiantio<sup>s</sup>  
 アミダイム(仏) (無量光仏) Amitabo\*  
 ~ ~~無量寿~~ 仏) Amitajo\*  
 アミド(化) ~~amido~~  
 amigasadake ~~アミガサダケ~~(植)  
 morkelo<sup>s</sup>  
 amijakuŝi あみじやくし ~~アミ~~  
 senŝaŭmigilo  
 アミクトス(ミサ衣) (カ) amikto  
 (alboの下に着る)  
 アミン(化) amino  
 アミノ酸 amino — acido  
 アミラーゼ(化) amelazo  
 アミス(植) amirido  
 アミル(化) amilo  
 amitôĝi 網闘士 (rêtiarius)  
 (カ) retarmito  
 アモック(殺人)(マラヤ) amoko  
 アモム(植) amomo  
 アモン(大神)(エ神) Amono  
 アーモンド(果) migdalo  
 アモル(ロ神) Amoro  
 amu 編む p.f. plekti  
 編上げぐつ altasuo  
 編み合わす kuntriki  
 編針 trikilo,  
 編み込む tra plekti

編目 maso, plektajo  
 編目をほぐす dismasiĝi  
~~アム~~(菓を) あむ âpini  
 amoko 罎目(生) subordo,  
 (主要科につけて) 罎目を示  
 (植尾) ~ ine ~  
 malvineoj アオイ科  
 アムステルダム市 Amsterdam  
 アムール川 Amuro  
 an あん(菓) anno\*  
 anciso 安置所 ripozejo  
~~ア~~ 安価な malkara  
 annan 安南(地) Anamo  
 安南人 anamano  
 anraku 安楽 komforta  
 ansei 安静を乱す p.f. pertur  
 安静療法(医) ripozkurac.  
 ansokubi 安息日(イ) sabato  
 anŝin 安心 trankvil(ec)o  
 ~な ~a,  
 ~した memcertema,  
 (ホツと) ~する f. malsul  
 antei 安定 stabileco  
 ~の(理・化), ~した stabi  
 ~させる stabiligi  
 ~計 stabilometro  
 ~力(心などの) f. balast  
 ~力を失わせる f. senbal  
 ~装置(理機・空) stabil  
 ~劑(化) stabiligilo  
 anzangan 安山岩(鉱) andes



|                               |                                      |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| anzen 安全 sekureco             | 穴をあける trui                           |
| ～な sekura                     | 穴があく truiĝi                          |
| ～にする sekurigi                 | 穴蔵 truo, 穴倉 hipogeo                  |
| ～に守る f.asekuri                | 穴送り(札) ermitoludo                    |
| ～弁 sekuriga-valvo             | 穴うめ kompensajo                       |
| ～ボタン sekurbutono              | 穴うめする kompensi                       |
| ～地帯 trafikinsulo              | anadori 侮り moki                      |
| ～ピン endangera pinglo          | あなどる malestimi                       |
| ～装置(軍) gardilo                | アナフィラキシー(病) anafilaksio <sup>5</sup> |
| しや断器(電) gardilo               | アナギリス(植) anagiro                     |
| annai 案内 konduk(ad)o,         | anago あなご(魚) anago*, kongro          |
| gvid(ad)o, ～(機) gvidilo       | anaguma(動) melo                      |
| ～する gvidi                     | アナグラム(文学) anagramo                   |
| 案内人 gvidanto                  | ～(遊) anagramoj                       |
| 案内者 kondukanto                | アナグリフ (美・写) anaglifo                 |
| 案内所 informejo                 | anajako あなじやく(動) gebio               |
| 案内書 gvidlibro                 | アナカルジウム(果) anakardio                 |
| an 暗(あん)(光) eklipso           | (植) anakardiarbo                     |
| an 暗に含める implici <sup>5</sup> | アナキスト anarkisto                      |
| ～にさす aludi                    | アナキズム anarkismo                      |
| anbako 暗箱 ŝargujo             | アナコンダ (動) anakondo                   |
| angô 暗号文 kriptogramo          | アナクレオン体の(詩) anakreona                |
| 暗号通信法 kriptografi             | ～詩 ～ajo, anakreonteo                 |
| anĝi 暗示 sugestio              | アナクロニズム(記時錯誤)(史)                     |
| 暗示にかける ～i                     | anakronismo                          |
| 暗示的看過法(修) pretericio          | アナミタル(植) anamirto                    |
| ankoku 暗黒の p.f. malluma       | anasangmodoki あなさんごもどき               |
| anmoku 暗目のうちに implicita       | (動) mileporo                         |
| anrjokuŝoku 暗緑色の botelverda   | anata あなた(代) vi,                     |
| anŝo 暗礁 p.f. subrifo          | (神・親近者) ci, ～て呼ぶ cidiri              |
| ana 穴 p.f. turo               | ～を vin, あなたたち vin                    |

|                                      |                                           |
|--------------------------------------|-------------------------------------------|
| アンモン貝(古生) amonito <sup>s</sup>       | アントレ(料) entreo                            |
| アンモニア(ガス・水)(化) amoniako <sup>s</sup> | アントルメ(料) antaŭdecerto                     |
| アンモニウム(化) amonio, NH <sub>4</sub>    | アントシアニン(化) antocianino                    |
| アノビウム(虫) anobio <sup>s</sup> (しばんむし) | アントワープ市 Antverpeno                        |
| anojo あの世 transmondo                 | anzanĵu アンザンジュ(植)                         |
| f. Hadeso, ~で transmorte             | anastatiko                                |
| アノラック(ジャケット)(エスキモ)                   | anzu あんず(果) anzuo <sup>s</sup> , abrikoto |
| anorako                              | anzutake(植) kantarelo <sup>s</sup>        |
| アンペア(電) ampero <sup>s</sup>          | aoi 青い blua,                              |
| ~時~horo, ~数 amperaro                 | 青い色をしている blui                             |
| アンペラ(植) lepironio <sup>s</sup>       | 青い色の物 bluaĵo                              |
| アンペロプラムス(植) ampeloprazo              | 青葉 verdaĵo, 青絵具 bluaĵo                    |
| アンピール様式(建・美・服) empiro <sup>s</sup>   | 青がかつた blueta,                             |
| anpo あん法(医) kataplasmo               | 青黒い nigrablua                             |
| アンプール(薬) ampolo <sup>s</sup>         | 青写真 blukopio,                             |
| アンサンブル(芸・服・建) ensemble <sup>s</sup>  | ~機 cianotipio                             |
| アンソロジー(文学) antologio                 | 青白い(顔色などが) blanka                         |
| アンジャンレジーム(フ史)                        | 青白い livida, paleblua                      |
| Antikva Reĝimo                       | 青味 verdecio, 青物 verdaĵo                   |
| ansusiki 接手式(切) ordinado             | 青二才 flavbekulo                            |
| ~をする(切) konfirmacio <sup>s</sup>     | アオイドス(詩人)(詩) aedo                         |
| アンタレス星(火星の敵の意)(天)                    | aogicune あおぎつね(動) izatiso                 |
| Antareso                             | aogiri アオギリ(植) sterkulio                  |
| アンテナ(海・通) anteno                     | aoiaka アオイ亜科 malvineoj                    |
| アンテアード(国際語) Antido                   | aoĵi あおじ(種)(鳥) hortulano                  |
| アンテistroフィー(芝劇)                      | aokazura アオカズラ(植) sabio <sup>s</sup>      |
| antistrofo, kontraŭstro              | aoki アオキ(植) aukubo                        |
| アントクサントム(植) antokanto                | aomidoro アオミドロ(植) spirogiri               |
| アントン(男子名) Antono                     | konfervo <sup>s</sup>                     |
| アントラキノン(化) antrakino                 | aonori アオノリ(植) enteromorfo <sup>s</sup>   |
| アントラセン(化) antraceno                  | アオリスト(過去)(芝文) aoristo                     |

|                                   |                          |
|-----------------------------------|--------------------------|
| あなたに vin, あなたの via                | アンフィテアトルム(演技・闘技場) (ロ)    |
| あなたとしては viaflanke                 | amfiteatro               |
| アナテマ(宗) anatemo                   | アンギーナ(病) angino          |
| アナツト(化) rokuo(biksoからとる           | アンゴラ(市)(史) Anguro, ~の~a  |
| 帯黄赤色染料; バター・チーズな                  | ~産の ~a                   |
| どの色付け用)                           | アンゴストウラ(皮, 解熱剤)(植・薬)     |
| アナウンサー anoncisto                  | angosturo                |
| アナウンス anonco                      | アングレクム(植) angreko        |
| アンバーgris(化) ambro(りゆうぜん香)         | アングレース(ダンス・書体) (フ)       |
| アンボン(説教台)(キ史) ambono              | anglezo                  |
| アンブrosiアー(神の食物)(ギ・ロ神)             | アングリカニズム(神) anglikanismo |
| ambrozio <sup>s</sup>             | アングロサクソン人 anglosakso     |
| アンチモン(元素)(化) antimono.Sb          | アングル人 englo              |
| アンチピリン(化) antipirino <sup>s</sup> | アニリド(化) anilido          |
| アンチリス(植) antilido                 | アニス(果) anizo             |
| アンチテーゼ(哲・薬) antitezo              | (植) anizarbo             |
| kontraŭtezo                       | アニゼット(酒) anizbrando      |
| アンチヨービ(魚) anĉovo,                 | anizlikvoro              |
| ~ソース(料) ~ saŭco                   | アンジェラスカ(カ) angeluso      |
| アンダンテ(調曲)(楽) andanto <sup>s</sup> | アンカー(海) ankro            |
| ~て andante                        | ~アーム(海) ŝtoko            |
| アンデルセンの童話 Fabeloj de              | ~ブイ ankrobuo             |
| Andersen(アナスン, アネルセン)             | アンカラ市 Ankaro (Anguro)    |
| アンデス山脈 Andoj                      | アンケート enketo             |
| アンドラ(国) Andoro                    | ~ ~をとる ~1                |
| アンドロメダー(ギ神) Andromedo             | anko あんこう(魚) lofio       |
| ~座(天) ~                           | アンコール(楽) bis! biso       |
| アネモネ(種)(植) anemono                | ~と叫ぶ biso                |
| アネロイド気圧計(気) aneroido              | アンクル(機) ankro            |
| アネルギー(病) anergio                  | ~付時計 ~ohorloĝo           |
| アンフォラ(水がめ)(ギ) amforo              | アンミ(植) amio              |

|                                      |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| aoru ぬおる (火などを)                      | ~仕方で ĉiel, ĉiele,<br>ĉiamaniere       |
| blov:eksciti...                      |                                       |
| aosa あおさ(植) ulvo                     | arahabe 荒壁 stukajo                    |
| aosagi あおさぎ(鳥) arĉeo                 | ~を塗る stuki, ~土 stuk                   |
| aukigusa アオウキグサ(植) lemno             | ア・ラ・カルト(料) lau la karto               |
| アパナージュ(扶持)(フ史) apanago               | アラキドン酸 arakidonata acid               |
| ~を与える ~ i, ~領主 ~ ulo                 | ~塩(化) arakidonato*                    |
| アペニン山脈 Apeninoj                      | アラキシン酸 arakidata acido                |
| アペリチフ(食前酒)(料) aperitivo <sup>s</sup> | ~塩(化) arakidato                       |
| アピウム(植) apio                         | アラク(酒) arako <sup>s</sup>             |
| アピール f. apelacio                     | aramaŝi あらまし kompendie                |
| アポクロマート(レンズ)(光)                      | aramejasuri 荒目やすり rasp                |
| apokromato*                          | アラム人(史) arameo                        |
| アポローン(ギ神) Apolono                    | アランギウム(植) alangio*                    |
| アポローン賛歌(神) peano <sup>s</sup>        | アランソン(レース)(織) alensonc                |
| アポストロフィ(子)(文) apostrofo              | km. Alençon(最も美しいレ-                   |
| ~をつける(文) ~ i                         | arare あられ(気) grajlo <sup>s</sup> , ha |
| アパッチ人 apaĉo                          | ~が降っている Grajlas, Ha                   |
| appaku 圧迫する premi                    | ~の粒 hajlero                           |
| 圧迫感 premsento                        | arasagaŝi あらさがしのすきな                   |
| appare あつばれな merita                  | kritikema                             |
| アプライト(鉱) aplito <sup>s</sup>         | arasêto アラセイトウ(植) mati                |
| アラ(神、上帝)(回) Alaho                    | levkoj                                |
| アラベスク(建・美) arabesko                  | arasou 争り(所有権などを)                     |
| アラビア Arabio, ~ ujo                   | pridisputi,                           |
| アラビノース(化) arabinozo                  | ~余地のない nerefutebli                    |
| アラブ人 arabo                           | arasu(場を)荒す pristeli                  |
| arage あら毛(生) vilò                    | araŝi あらし blovado                     |
| araiguma あらいぐま(動) prociono           | f. ŝturmo, f. sturmo,                 |
| prociono                             | p. f. uragano                         |
| arajuru あらゆる ~理由から ĉial              | ~が吹く stormi                           |

|                                     |                                                  |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------|
| arataka あらたかな(宗) efika              | abunda, ~である abundi                              |
| aratamete あらためて denove,             | アーリアン主義(政) arjanismo                             |
| refoje                              | アリアリア(植) aliaro                                  |
| arato 荒砥 grejso <sup>s</sup>        | アリバイ(法) alibio <sup>s</sup>                      |
| arau 洗う lavi, (身体・顔を)               | アリダード(器)(理) alidado                              |
| (身体、顔を) sinlavi                     | アリエンタ(楽) aricto                                  |
| 洗い落とす ellavi, forlavi               | arigato ありがとう! Dankon!                           |
| araũareru 現われる apera, vidigi        | ありがたい dankinda                                   |
| araũasu 現わす aperigi                 | arihureta ありふれた danala                           |
| are あれかこれか tiu aũ alia              | ordinara, ~事柄、~語句                                |
| arê 亜鈴(運) haltero <sup>s</sup> ,    | banalajo                                         |
| 亜鈴体操、重量挙げをする                        | arijigoku ありじごくの成虫                               |
| halteri                             | (うすばかげろう)(虫)                                     |
| アレグロ(曲)(楽) alegro <sup>s</sup>      | formikurso = mirmeleono <sup>s</sup>             |
| アレグロツト(楽) alegreto                  | arikui ありくい(動) tamanduo                          |
| アーレンカ(道化俳優)(劇) arlekeno             | arimaki ありまき(虫) afido <sup>s</sup>               |
| アレキサンダー(男子名) Aleksandro             | アーリマン(ペ神) Arimano                                |
| アレキサンドル格の(詩) aleksandra             | arinotogusa アリノトウグサ(植)                           |
| arekuruu 荒れ狂う sovaĝi                | halorago*                                        |
| f. sturmi, furioza                  | アリオーン(調)(楽) arioso*                              |
| アレクトル(種)(鳥) alektoro                | アリル(化) alio $\text{CH}_2 = \text{CHCH}_2^-$      |
| areno 荒れ野 sovaĝejo                  | アリアル(化) arilo (芳香族炭化水素                           |
| アレオパゴス(法廷)(神) Areopago <sup>s</sup> | の核から水素1原子を除いた残基                                  |
| アレルギー(病) alergio                    | の総称、ベンゼン $\text{C}_6\text{H}_6 \rightarrow$ フェニル |
| areta 荒れたままの sovaĝa                 | $\text{C}_6\text{H}_5^-$                         |
| ari あり(虫) formiko,                  | arisô ありそいな probabla                             |
| へいたいあり(虫)                           | arisui ありすい(鳥) jingo                             |
| soldatformiko                       | アリストテレス(ギリ人) Aristotelo                          |
| ありの巢 formikejo                      | ~学派の(哲) peripatetika                             |
| アリア(調)(楽) ario                      | ~派(人)(哲) aristotelano                            |
| ariamaru ありあまるほどの                   | ~哲学(哲) Aristotel(an)ismo                         |

LEONTODO n-ro 47

1972年6月17日発行

発行所 北海道エスペラント連盟

060 札幌市南2-西4 中央タイピスト学院内  
TEL 251-4750  
振替口座 (小樽) 77075

編集 沢谷 雄一